

進路指導部通信

県立高等特別支援学校

進路指導部

2014.12.5 NO. 7

山々の紅葉の見頃も去り、冬支度に入ろうとしています。これから本校の一番厳しい時期がやってきます。皆さんも入試の時に寒くてふるえたのではないのでしょうか。各教室にはストーブが入りますが、職業実習の時にはもちろんストーブを使用しません。どんな状況下であっても「働き続ける！」ことが仕事です。寒いから集中できないとか、寒いから働く気になれないとかは通用しません。しっかり働き続けられる社会人には急になることはできません。様々な経験をして、悩んで、考えて、人は成長するのです。私たちは寒さに堪え忍ぶ力を身につけたいのではなく、まず「自分で考える」という習慣を身につけてほしいと思っています。寒ければどうしなければならぬのか？等自分で考えるという習慣です。社会人になれば細かく指示を出してくださる会社はそう多くはないかもしれません。考える力が必要とされます。ある企業では冷凍庫の中に入って作業をすることがあり、その時には上着を着用するように指示を出されています。「着る」「着ない」を自分で判断しながら働くのです。毎回周りから声をかけてくださるわけではないのです。また、ある実習先では企業から事前に持ち物について指示をされていたのですが、その中に必要な帽子が含まれていませんでした。実習初日に担当者から「帽子はないか？」と尋ねられ、その生徒は2日目から自分の判断で帽子を持っていました。本人は周りの状況を見て、皆さん帽子を被っているから必要だと感じ取ったのでしょう。指示がないから持って行かなくていいではなく、自分としては必要だと考えたのです。企業の方も生徒の行った行動に関心され、自分で考えて答えを出すことの大切さを感じました。これからいろいろな場面で「考える」ことを習慣づけ、身につけていきましょう！

知っておこう⑦

アセスメント実習についてお知らせします。アセスメント実習というのは就労継続B型を利用する際に必要な実習です。来年度からは高等部卒業後すぐのB型の利用は基本的にできず、移行支援事業所を利用するということになっています。しかし、移行支援事業所は就労を目指すための事業所であること、2年という期間の制限があること等、いつ利用すべきかどうかを考えなければなりません。「就労したい！」という気持の育ちや、課題の克服等、「今が就労を目指す時」という姿勢が見られた時に利用すべき所なのです。つまりアセスメント実習というのはB型を利用することが適切であるという判断をもらう為の実習なのです。しかしこの実習にも各市町村によって対応が違います。今の段階ではこのような実習があるということだけ知っておいてください。

現場実習を終えて・・・

1年生にとっては初めての現場実習。もっと楽しいものだと思っていた生徒もいるのではないのでしょうか。2年生にとっては引率のない1名～2名での実習。「〇年の〇〇が体調不良で欠席です」とか「早退しました」といった連絡が進路指導部へ入ります。今回の実習を経て体調管理の難しさを痛感したのではないのでしょうか。働くには体調が万全でなければなりません。リフレッシュも大切ですが、リフレッシュのつもりがよけいに疲れたと感じることもあるかもしれません。ゲームをするのもよし、テレビを見るのもよし、しかしどこかで制限しなければなりません。体調を整えて仕事に向かう為に自己管理が必要です。体調を崩した人、崩しそうになった人、今回の反省や学びを忘れずにこれからの生活に活かしていきましょう。ただの行事で終わらせることのないように、日頃からの心がけが「働く力」となるのです。